

## ▲ 株式会社BookLive

# 電子書籍の黎明期から電子書籍ストアでマンガ市場を大きく変えたIT企業 ——使い勝手の良さと多様なコンテンツ配信で業界をリード

ここに  
注目!

累計 120 万冊を配信する国内最大級の電子書籍ストアを運営  
若手が活躍できる自由闊達な社風でビジネスチャンス拡大

2021年に開かれた東京オリンピックの開会式で、各国選手団のブラカードにマンガの吹き出しや集中線のデザインを採用したり、ブラカードベアラーの衣装にスクリーントーン柄があしらわれたりして話題になった。日本のマンガが世界に通用するグローバルコンテンツとなって久しい。だが、そのマンガ市場は激変している。紙からデジタルへの移行が進み、マンガは「スマートフォンやタブレットでも読めて、楽しめるもの」として認知されるようになってきた。その先駆者がBookLiveだ。

世界最大規模の総合印刷会社である凸版印刷は新規事業として、2003年に日本で初めて「ガラケー」と呼ばれたフィーチャーフォン（多機能携帯電話）向けに本格的なコミック配信をスタート。2005年にビットウェイとして分社化した。

2011年には新会社のBookLiveとしてビットウェイから独

立、国内最大級の総合電子書籍ストアを運営する業界トップクラスの企業だ。

### 「使いやすさナンバーワン」を支えるエンジニア

同社が運営する総合電子書籍ストア「ブックライブ」の人気の秘密は、配信累計120万冊という巨大な電子書店であること。さらには会員登録なしにタダで読める「まるごと無料！」の作品が常時1万冊以上あり、2020年9月度のアンケート調査では20代の男女から、「使いやすい電子書籍ストア」のナンバーワンに選ばれた（電子書籍・電子コミックに関する調査 実査委託先：ESP総研、調査対象：20～29歳）。

使いやすさの根幹を支えているのがシステム開発部門だ。ユーザーの使い勝手を考慮し、スマホ決済、キャリア決済、クレジットカード支払いなど、様々な決済方法を導入している。1日1回チャレンジでき、10～50%の割引を

受けられる「クーポンガチャ」のようなユーザーを飽きさせない機能も、ビジネス部門と連携しながら実装している。

細かいところにも気を配らなくてはならない。技術・開発本部システム開発部ストア開発チームの多久島さんは「例えば、わずかでもWebサイトの表示速度が落ちると、ユーザー体験は悪化する。利用者が増えると処理するデータ量が増え速度が落ちるので、利用状況を監視しながら随時改善している」と話す。こうした不断の努力で、ストアの使いやすさを維持しているのだ。

### 本との出逢いで差別化、「人」の力

電子書籍ストアでありながら、サービスに「人」が介在しているのも魅力の一つ。ブックライブには「すず木」と「えい子」という2人の「顔の見える書店員」が在籍している。彼女たちは企画運営やプロモーションなどを通じて、



多様な意見を尊重する企業風土、社員一人ひとりの活躍と組織コミュニケーションの高さが成長のカギ



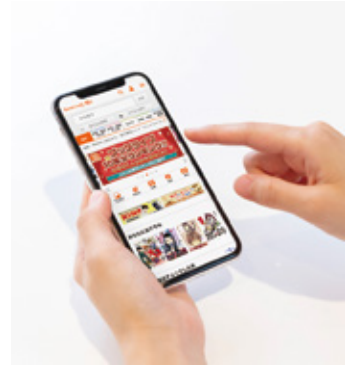
もっと気軽に、もっと快適に、あなたの人生に寄り添うサービスへ



エンジニアとしてサービスの開発・運用・保守を担当する多久島さん  
(2018年新卒入社)



マーケティング部のチームを率いてプロモーション施策を推進する田中マネージャー (2013年新卒入社)



サービス開始10周年を迎えた電子書籍ストア「ブックライブ」

コミックの最新トレンドをストアやSNSで発信し、ユーザーとの交流を深めているという。すず木は年間2000冊を読み込むマンガのスペシャリスト。えい子は人生に悩む人に合った本を薦めてくれる。デジタルに「人」が介在することで、ユーザーの多様な嗜好性に細やかに温かく応えるサービスだ。

ストアの売上高も2017年度以降2桁成長で、成長率は年々上昇している。直近の2020年度は前年比で35%も伸びた。高成長の秘密は、女性ユーザーをターゲッ

トにしたプロモーション強化だ。ストア本部マーケティング部アドバイザーの田中マネージャーは「テレビCMで、女性人気の高いタレントさんを起用できたことで、女性層のブランド認知率が大きく向上した」と明かす。「少女・女性マンガ」「ティーンズラブ」「ボーイズラブ」といった女性購入層をメインとした作品群の売上は前年比約60%増と、女性ユーザーがストアの成長に大きく貢献している。

こうした新しい取り組みを次々に展開できる理由は、若い人材が

仕事に打ち込める職場環境にある。田中マネージャーは新卒でBookLiveへ入社後、21年から管理職としてテレビCMやWeb広告全般を担っている。「仕事の裁量が大きい。仲間にも恵まれ、一緒に仕事をしていて楽しい」と打ち明ける。電子書籍の先駆者であるBookLiveが現在も業界をリードし続けているのは、若手社員が伸び伸びと活躍できる社風のおかげなのだ。

## わが社を語る

代表取締役社長  
淡野 正氏



## 新たなサービスや事業を創造し続ける

ガラケー時代からマンガの電子版に取り組んでいます。当初は1冊でも多くの作品で電子化の権利を獲得できるかが勝負でした。現在は電子化されるのが当たり前となり、魅力的なオリジナルコンテンツを発掘する能力が問われています。

変化の激しいマーケットに対応するには、新たなサービスや事業を創造し続けることが必要です。そのため、社

員の提案に耳を傾けチャレンジな領域にも積極的に投資しています。あたりまえの仕事をあたりまえにやるだけではなく、可能性があるものはどんな提案してもらいたい。やりがいをもって高いモチベーションで仕事を楽しめる環境があるため、手を挙げた社員には成長するチャンスがある会社です。

## 会社 DATA

所在地：東京都港区芝浦3-19-26  
設立：2011（平成23）年1月28日  
代表者：淡野 正  
資本金：15億8千万円（資本準備金等を含む）  
従業員数：159名（2021年3月31日現在）  
事業内容：電子書籍ストア事業、電子書籍配信プラットフォーム事業  
URL：<https://www.booklive.co.jp/>

